

勇気を出して親切に

福島県 高田中学校 一年  
栗木 心菜

「情けは人のためならず」

私はあまり、その言葉の意味に共感ができなかった。もしも「お節介」と言われたら、役に立たなかったら……。情けは本当に自分のためになるのかな、と思った。でも私は、次の体験を通じて人のためになんかすることは、とても良いことなんだと気づくことができた。

私たちは、身近な地域の歴史について学ぶため、会津若松市内で校外学習を行っている。班の人たちと見学する場所を決め、私は楽しみだという気持ちとは裏腹に、近場ではあるものの行き慣れていない場所に行くことに、不安があった。地図の確認もしたが、本当に合っているのかとても心配だった。

当日、歩き始めたものの、私たちはやはり道に迷ってしまった。ここからバス停に行きたいのに、地図の方向と場所が合っていない。もう少しでバスが来る時間なのに、私たちは混乱していた。そのとき、一人の女性が私たちに声をかけてくれた。

「大丈夫？ 道に迷ったのかな？」

その女性は、正しい道を教えてくれた。バス停とは、反対の場所だったらしい。私たちは、

「ありがとうございました。」とお礼を言うと、

「お役に立てて嬉しい。楽しんでね。」と言ってくれた。おかげで、バスの時間に間に合った。

また、これだけではなかった。観光先でも、たくさんの人が「気をつけてね」「暑いけれど、がんばってね」と声をかけてくれた。私は、みんなの優しさに嬉しくなった。

食堂では、離れている席しか空いていなかったため、私たち4人が困っていると、男性の方々が席を譲ってくれた。お礼を言うと、「気にしないで。」と言ってくれた。私はそのとき、この町には良い人しかいないのではないか、と思った。

見ず知らずの私たちに、笑顔で親切に話しかけてくれる。私なら、きっとこんなことはできない。知らない人に親切に道を教えることも、笑顔で話しかけることも、席を譲ることも。

人に親切にするのは苦手だ。困っている人がいても、知らない人に声をかけるのは怖いし、勇気が出ない。でも、道を教えてくれた女性の言葉を思い出した。

「お役に立てて嬉しい」。

その女性の顔は、ニコニコしていた。教えた人も気持ち良かったのかな、と思った。だから、怖いけれど私も自分から話しかけてみようと思った。

ある日、友達が物をなくして困っていたので、私は勇気を出して探し物の手伝いをした。時間がかかったけれど、協力したおかげで見つけることができ、友達は「ありがとう。」と言ってくれた。

私はこのとき、「情けは人のためならず」の本当の意味がわかった。探し物が見つかって、私もとても嬉しかったし、親切というのは自分にとっても、誰かにとっても心が温まることなんだと気づくことができた。

これからは怖くても、人が困っていたら進んで声をかけ、勇気を出して親切にしていこうと思う。